

ほろにか

平成28年9月21日
全国卸売酒販組合中央会

「近畿卸酒販組合」誕生に際して

近畿支部長 喜多 和生

この度、大阪卸酒販組合（大阪府・奈良県・和歌山県）が京滋卸酒販組合（京都府・滋賀県）を吸収合併する形で、来る1月1日を期して、新たに近畿卸酒販組合が誕生することになりました。

私は、14年前に大阪府卸酒販組合の理事長に就任した当初から、ビール4社には支部単位で対応せねば話を聞いてもらえないとの思いで、近畿の各組合との連携を深めつつ組合運営をしてきました。そして、10年前に奈良県及び和歌山県の両組合を吸収合併し、新しく大阪卸酒販組合として、より広域化した中で、ガイドライン遵守を中心に活動してきました。

しかし、この数年、近畿支部として活動する機会が増えるに伴い、大阪組合と近畿支部の二重構造は役員、とりわけ大阪組合の幹部役員には負担が大きく、中央会の意向も踏まえ、近畿を単位とする組合に、早期に向かうべきとの機運が高まったのであります。

そうした中、昨年末に京滋卸酒販組合から合併の申し入れがあり、即座に受理すると共に、「近畿は一つ」の思いから、さっそく兵庫県卸酒販組合にも打診を致しました。残念ながら、兵庫県組合からは時期尚早とのことで、今回は見送りたいとの返答でしたが、方向性は理解いただき、兵庫県組合は含まないものの、近畿卸酒販組合としてスタートすることになった次第です。

大阪組合は過去に奈良県と和歌山県を併合した経験があり、事務手続き等は順調に進み、総会での承認を経て、今は来年1月1日の新組合誕生を待つみの状況ですが、難題は新理事長の人選であります。

7期14年間理事長を務めた私に代わり、去る5月の大阪の通常総会で新理事長を選出して合併に臨む予定でしたが、後任が決まらず、年末まで暫定的に従来体制を継続し、その間に新理事長を選出し、新組合発足と同時に新体制をスタートさせることに決定致しました。

さて、その新理事長ですが、近畿2府4県のうち兵庫県を除く府県が一つになる、新組合のエリアの広域性を考えますと、その広域な市場を熟知し、エリアを代表して理事長に就任出来る方は、地域卸では極めて限られるのが現状であります。

現在組合に加盟している地域卸は、卸事業は事業活動のワンオブゼムであり、純粋な專業卸は極めて稀というのが、全国の一般的な状況ではないでしょうか。否、小売店が

ビールの取り扱いウェイトを下げ生き延びようとするように、地域卸は卸事業のウェイトを下げることで生き延びてきたと言っても過言ではありません。

単位組合が広域化するの時代の流れの中で必然的であり、当然の方向だと思いますが、広域化した単位組合が、市場問題を中心に中身のある活動をしていくには、地域卸がリーダーでは力が及ばなくなりつつあります。もちろん、全国的には地域による違いが大きいと思いますが、少なくとも新たに発足する近畿卸酒販組合のエリアにおいてはそれが実態であります。

近畿卸酒販組合の新理事長は、近々開催される大阪組合の臨時総会において決定されますが、仮に地域卸が理事長を務めることになるならば、商社系を含めた全国卸の出先の長の方々の絶大な協力体制が必要となります。更に、先々はその方々の中から理事長を務めていただくことも、視野に入れなくてはならないのではないのでしょうか。

また、商社系全国卸の組合活動への姿勢が物議をかもし中で、地域の組合の力が及ばない問題になってしまった以上、この問題について、中央会でのはっきりとした方向性と対応をお願いしたいところであります。さもなくば、地域の組合活動はますます形骸化してしまい、その理事長の働きは「お人よしの徒労」になりかねません。

この度誕生する近畿卸酒販組合のエリアは、全国の中でも、いち早く卸業界が大きく変化したエリアであります。それだけに、組合活動の変化も早かったと思いますが、今回の新組合の抱える問題は、今後、東京以外の地域の組合の多くが抱える、大きな問題になるのではと危惧致します。

新組合誕生に際し、この問題を単なる地域の組合の問題としてではなく、法定組合の今後のあり方と活動の大きな問題としてとらえ、向き合っていただくよう、中央会とご当局にお願いする次第であります。